



全国学力学習状況調査の結果を受けて

4月に3年生が行った「全国学力・学習状況調査」の主な結果についてお知らせいたします。

【学力調査について】(見方：県、及び全国平均を上回っていれば○、下回っていれば△)

科目	県平均比較	全国平均比較
国語A (主として知識)	○	○
国語B (主として活用)	○	○
数学A (主として知識)	○	○
数学B (主として活用)	○	○

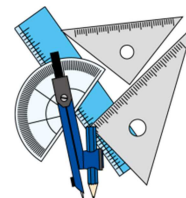
<国語の分析>



「読むこと」「書くこと」については、A問題もB問題もおおむね良好な結果である。例えば「登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解すること」、「書くこと」については、「伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える」こと、「叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える」ことなどが県・全国平均を上回っている。一方、A問題のみの出題である「話すこと・聞くこと」については、「二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理すること」、「話し合いの方向を捉えた司会の役割を果たす」ことなどが県・全国平均を下回った。

<数学の分析>

A問題については、「数と式」「図形」「関数」「資料活用」の四領域ともに県・全国平均を上回っている。B問題については、「数と式」「関数」については県・全国平均を上回っている。「図形」は全国平均より上、県平均より下、「資料活用」は県・全国平均を下回った。



「図形」については、三角形や長方形の基本的な性質を利用した問題についてはよく解けている。一方、例えば「図形の中の線分の長さが等しい」ことを証明するには、前提として何の合同や相似等を用いる必要があるのかを見いだすことがやや苦手である。「資料活用」については、「グラフ・表の活用」についてはA問題もB問題も県・全国平均を上回ったが、確率を求めるときに基本となる「樹形図」の見方・考え方を理解していないため、答えを求めるために活用できていない割合が多く、県・全国平均を下回った。

【改善点】

<国語> 「話すこと・聞くこと」の力を伸ばすため、各教科の授業や学級活動・道徳等の時間で、自分の考えを持った上で生徒間のかかわり合いや話し合い活動を行い、自分の考えを深めたり広めたりする機会をより多くしていくこと、またその中で、司会や書記などの役割をどの生徒にも行う経験を計画的にさせていくことが必要である。

<数学> 「図形」については、問題で与えられた条件を図に表しながら整理させることと、証明のためには最終的にどんな合同や相似がいればよいのかを見いだすことを意識させ、より見通しを持たせて解かせる指導していくことが必要である。「資料活用」については、確率の「樹形図」など、活用できるようにその見方や考え方を確実に定着させる必要がある。

【学習状況調査について】(見方:県、及び全国平均を上回っていれば○、下回っていれば△)

項目	県平均比較	全国平均比較
数学への関心	○	○
国語への関心	○	○
総合的な学習の時間への関心	○	○
規範意識	○	○
自尊感情	○	○
言語活動・読解力	△	△
生活習慣	○	○
学習習慣	○	○

- ◎「国語への関心」については、主に「読書が好き」な生徒が県・全国の割合より上回っている。「伊豆市の子どもに読ませたい本百選」の取り組みや、毎朝の朝読書を年間通して安定して行っていることが結び付いていると思われる。
- ◎「数学への関心」については、主に「数学が将来社会に出たときに役立つと思う」生徒の割合が県・全国より上回っている。
- ◎「総合的な学習の時間への関心」では、「自分で課題を立てて情報を集めて整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」生徒が県・全国を圧倒的に上回る。「天城学習」の取り組みにより、自信をもってそのように答える生徒が多い。
- ◎「規範意識」では、「学校の規則を守っている」、「友達との約束を守っている」、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」生徒の割合が県・全国をかなり上回っている。教育基盤として、他地域よりも家庭でのしつけ、地域での児童生徒の見守り等がしっかりしていることが要因であると思われる。
- ◎「自尊感情」では、「自分には、よいところがあると思う」生徒の割合が、県・全国を若干上回っている。「天城学習」で地域のよさを自分の目と耳で知り、誇りを感じていることがその原因となっている可能性がある。
- △「言語活動・読解力」については、「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」が苦手と感じている生徒の割合が、県・全国よりもかなり多い。「友達に伝えたいことをうまく伝えること」についても、県・全国の生徒の割合よりも若干低い。
- ◎「生活習慣」については、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」生徒の割合が、県・全国よりも多い。やはり家庭でのしつけがしっかりしていると思われる。
- ◎「学習習慣」については、平日に3時間以上、土・日に4時間以上という長時間家庭学習をしている生徒は少ないが、平日で1～3時間、土・日に2～4時間学習している生徒の割合は県・全国よりも上回る。
- ◎「その他」として、「地域の行事に参加している」、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」生徒の割合が県・全国よりもかなり多い。「新聞をほぼ毎日読んでいる・週に1～3回程度読んでいる」生徒の割合も同様に多い。「天城学習」をはじめ、社会科を中心に行っているNIE学習等により、地域や社会への関心を高めていると思われる。



【改善点】

「言語活動・読解力」については、<国語>「話すこと・聞くこと」での対策と同様に、「授業で自分の考えを発表する機会を与えること」、「話し合う活動やかかわる活動を行い、自分の考えを深めたり広めたりする機会を設けること」等の取り組みを、各教科の授業や学級活動、道徳等で行っていく必要がある。また、一定の成果を上げている「天城学習」においても、「21世紀に生きる人」として必要な資質・能力である「情報発信力」や「読解力」を捉えなおし、生徒主体に追究し、発信できるように、自己の課題の吟味をより丁寧に行っていきたい。

★お気づきの点などがございましたら、またお聞かせください。なお、この学校だよりは天城中学校ホームページでご覧いただけます。

